

送辞

草木も、長い冬の眠りから覚め、生命の息吹が感じられる、今日、この佳き日に、大分県立大分舞鶴高校を巣立っていく先輩方、ご卒業おめでとうございます。

今、先輩方は、この舞鶴高校での三年間を、どのように振り返っていらっしゃるでしょうか。きっと、たくさんの人と交わる中で、貴重な体験をし、かけがえのない思い出を築いてこられたことと思います。いつも、勉強に部活動、学校行事において、「舞鶴魂」を体現し、進むべき道を示してくださった先輩方の背中には、私たちの憧れでした。

「勇往舞進」のテーマを掲げ、先輩方が主体となって創り上げた昨年度の柏葉祭。グラウンシアタで公演されたクラス発表は、ユーモラスなものから、これからの生き方を考えさせられるものまでありました。どの発表も、クラスの一体感が感じられ、一人一人が協力すれば、このような素晴らしいものを作り上げることができるのだと、深く感銘を受けました。個人や部活動での発表では、それぞれの持つ個性や能力を存分に生かし、多くの先輩方が一歩前に出て、輝いていました。私は、特に、のど自慢コンテストが強く印象に残っています。一人で広いステージの真ん中に立ち、それぞれの世界観を表現する様に、鳥肌が立ち、私もいつか先輩方のように輝きたいと、前向きな気持ちになりました。

そんな先輩方を見て、私たちが成功させようと意気込んだ、今年度の柏葉祭。先輩方は、いつも一、二年生の一歩先を行き、体育の部を活気づけてくれました。雨上がりのフォークダンスから校長先生の胴上げまでの流れは、本当に感動しました。また、文化の部では、私たちの粗削りなパフォーマンスにも、温かい反応をくださいました。どちらの部も、全力で盛り上げてくださった先輩方のおかげで、最高の思い出になりました。

私が先輩方との思い出で、一番心に残っていることは、新聞部の活動に、たくさん協力してくださったことです。各部活動にインタビューをお願いしたときには、大会前の、ストレスが大きいであろう時期でも、快く応じてくださいました。朝、教室で受験勉強に励む様子を取材させていただくお願いをしたときには、予めクラスメイトに周知してくださいました。どんな時でも笑顔を忘れず、周囲の人のことを考えられる、やさしい心を持った先輩方に、私は何度も励まされました。

部活動に精を出す中、学業もおろそかにせず、舞鶴高校の掲げる「文武両道」を実現する先輩方は、私たち後輩の目標です。受験勉強に取り組む先輩方は、いつも真剣な顔つきをしていて、応援の気持ちが大きくなりました。朝早くから登校し、黙々と自習をする姿、休み時間にも何かを覚えている横顔、隣の教室から聞こえてくる面接練習の声。放課後は、職員室や進路指導室で自分自身の将来に、真摯に向き合っていたこと……。自分の未来を切り拓いていこう、いこうとする先輩方を見て、「先輩方がこんなに頑張っているのだから、私ももっと頑張ろう」と勇気をもらいました。

これから私たちは、困難に直面することが必ずあると思います。そんなときは、先輩方のように、仲間同士で励ましあい、最後まで頑張ろうと思います。

今、こうして振り返ってみると、先輩方は常に私たちの目標であり、心の支えでもありました。輝かしい未来に向けて、自分の信じた道と向き合う先輩方の姿を、私たちは、後ろからずっと見ていました。これからは、そんなまっすぐな先輩方が守り続けてきた、舞鶴高校の伝統を、私たちが守っていかなければなりません。舞鶴魂で、ある時には自分を奮い立たせ、ある時には仲間にエールを送り、共に困難も乗り越えます。明日から先輩方が、ここ舞鶴高校からいなくなってしまうのは寂しいですが、これからは、私たちが舞鶴高校の伝統を受け継ぎ、活気あふれる学校にしていけるよう、全力を尽くしていきたいと思えます。

先輩方は、これから新たな人生を歩んでいきます。社会人への一步を踏み出すことで、大きな壁にぶつかることも時にはあると思えます。そんなときには、ここでの生活、出会った人を思い出してください。困難があっても、それに立ち向かったこと。そして、たくさんのかげがえのない人と出会えたこと。舞鶴高校での経験が、先輩方を、明るい未来へと導いてくれます。何事も、「しまれ」「がんばれ」「ねばれ」「おしきれ」の精神で乗り越え、先輩方一人一人の夢が拓くことを、心より応援しています。

最後に、卒業生の皆さまのご健康と、さらなるご活躍を心より申し上げ、在校生代表の送辞とさせていただきます。

令和二年 三月一日

在校生代表 飯田紗来